

二〇〇八年三月十八日(火)

増刊

一九七九年八月一日

第三種郵便物認可

AJU 愛実

第4号

発行者：特定非営利活動法人 愛実の会



NPO法人 愛実の会

成人を祝う会 & 新年会

1月22日(火)名古屋ガーデンパレスにて

共同生活から与えられるもの

みどりファミリー「みどりの家」は、「愛実の会」の働きの一つです。2002年4月から現在の家をお借りしてはじまりました。障がいの重い娘を持った時から、私には夢がありました。障がいが重くても、意思の疎通が難しくても、彼らが親元を離れて地域で暮らし続けていくこと、そのための家が欲しいと言うことでした。それにはラルシュ・ホームをモデルにしたいと考えていました。ラルシュ・ホームの特徴の一つは、アシスタントは家族的に暮らしながら仕事をすると同時に、自己の生きかたの変換を迫られるということがあります。創設者のジャン・バニエが「この人たちは世話になるだけではなく、私たちを導く人たちだ」と語ったことを、最近はしみじみと味わうようになってきました。

それは共同生活で美しい日々を与えられているというからではありません。意思疎通の難しい彼らと、年代も価値観も違うアシスタントたちと暮らす日々は、どきどきの毎日です。たくさんの怒りに囲まれて、自分の怒りや無力感とのたたかいです。そういう日々を通して、障がい者の置かれた社会の状況や私たち人間の限界や美しさを見るようになってきました。そこで知ったことは、すべての人に通ずる弱さの問題です。私からみれば澁刺たる若い人たちが自信を失い、自己評価が低いことにびっくりします。それは私たちの社会が「もっと強く、大きく、たくましく」を強制して来たからでしょう。私自身も「助けてほしい」とか言えずに、長い間我慢してきました。若い人が「島さん、嫌なことやっと言えようになりましたね」とか言ってくれる中で、我慢してもそれだけでは何も解決しない、と分かってきました。でも一緒に暮らすことは困難です。毎月、私たちの話を聴いてくれる島田恵子さんが、「話し合うことよ」とよく言います。「話し合うような気持ちじゃないから、悶々としているのに～」と思いながら、無理やりに時間を作り、率直に気持ちを伝え合うと、関係がスムーズになります。最近、自己表現しなかったメンバーのひとりが表現するようになってきました。この人が外出すると、うつむいていることが気になっています。フランスのラルシュ・ホームでは、障がいを持つ人が首を上げて、誇り高く生きていました。この名古屋でもメンバーたちがそういう姿勢で生きられるように共に暮らしていきたいです。

島 しづ子



年度末を迎えるにあたって

NPO 法人愛実の会は昨年 1 月法人としては認可され、昨年 4 月より事業を開始いたしました。具体的実施しておりますのは生活介護事業（通所サービスの 1 つ）、居宅介護事業（ホームヘルプサービス）の 2 種類です。生活介護事業につきましては 3 つの施設で 1 つの事業所という形態をとっております。そして、この 2 つの事業を実施することを通して、重度の障害を持つメンバーの生活を少しでも幅広くサポートしてまいりたいと願っております。

私自身、他の事業所の方と交流する機会が時々あるのですが、ホームヘルプのみを実施している事業所、私どもと同じく通所サービスとホームヘルプを実施している事業所、中には前記の事業に加えてケアホーム（グループホーム）を実施している事業所、とさまざまですが、経営的にはホームヘルプサービスのみを実施している事業所は非常に経営的に厳しいという声を聞きますし、私自身ホームヘルプサービスのみで事業所を継続していくことを考えた時に非常に困難だなあという感じを持ちます。

そういう面から、NPO 法人愛実の会が現在実施しております通所サービスとホームヘルプサービスの実施というのは、メンバーの生活を少しでもトータルにサポートしてまいりたいという願いが第 1 にあるのですが、事業所の継続という側面からも必要なことだと考えております。そして、事業所がなくなれば、メンバーは今まで受けてきたサポートを失いアシスタント（スタッフ）は職を失い、と双方とも生活に困る事態になってしまうのでやはり事業所の継続は現在も今後もある意味では最優先の課題であろうと考えております。

ただ事業所の継続を考える際、メンバーのニーズを見ないでただお金の計算をして頭を悩ませるのではなく、現在事業所として応えられていないメンバーのニーズにお応えしていくことによって、それが経営面からも良い方向に向かっていくというのが本来のあり方かと考えております。本当はメンバーのニーズに応えていくことは経営にとっても良いことであるという前提で今後も歩んで参りたいと思っております。

中森 由哉

日本財団様よりハイエースを頂きました



私ども愛実の会は、重度の障害のある方々のサポートに力を入れており、送迎や外出に車椅子で乗れる車は大変ありがたいものです。

さて、愛実の会がまだ任意団体として活動していた 1996 年に日本財団よりキャラバンの助成を受けました。この車は車椅子 2 台が乗車できるもので、昨年 12 月まで大活躍してくれましたが、日本財団の海外に車輛を寄贈するプロジェクトのご案内を受けたことにより、ペルーに送られそこでまた活躍することとなりました。

そして、日本財団よりペルーに送られたキャラバンの代用車輛として、ハイエースの助成を頂きました。この車も、早速送迎に外出に活用されております。キャラバンと同じく長年にわたって大活躍してくれると思っています。

大切に使用していきたいと考えています。ありがとうございます。

愛実友だちの家のページ

(P 3～4)

～季節の行事を大切にしています～

今年もやりました！！

毎年恒例となっている書初めと福笑い。

一年の計は初デイにあり！！とみんな決意を新たにしました。

美を極めようとするメンバー、食べることを楽しみにしたいメンバーと思いは色々ですが、みんなの思いが叶うよう今年も楽しいデイを開催したいと思っています。

さて、福笑いの方は・・・なんともおかしな顔になりました。

メンバーそれぞれが『まゆげ』『め』『くち』『はな』を担当。

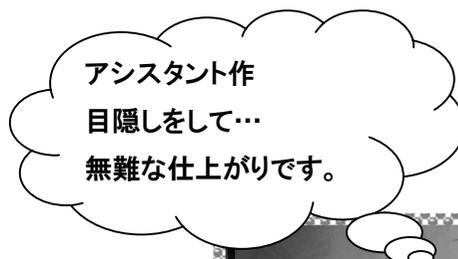
『くち』担当メンバーの順番は一番最後だったのですが・・・

な、な、なんとこの位置に『くち』を！！

なんともファニーフェイスができあがりました。



メンバー作
なんと額に口が！！



アシスタント作
目隠しをして…
無難な仕上がります。



豆まきで福を呼ぼう！！

今年の節分は午前中に鬼のお面を作り、
午後にはそのお面をつけた鬼がやって来る、という趣向で楽しみました。
鬼のお面作りの時から少々泣き顔のDさん・・・。
できるだけ怖くないお面を作りましたが、
それでも午後の豆まきは顔がこわばりました。
でも豆まきをすれば鬼が去り、福が来るとわかり最後にはにっこりでしたよ



思い出を大切に

季節の行事を中心に、外出や製作を通し色々な体験をしています。
その思い出を大切にしたいと思い、今年度は個人のアルバム作りに年間を通し
取り組んでいます。
その季節ごとの雰囲気に合わせてページをデコレーション。
写真の出来事を振り返りながら個性的なアルバムを仕上げていきます。
三月中に完成予定。さてどんなアルバムになるのでしょうか？

★大地の家のページ★

(栞～6)

1年間の活動記録

2007年度の大地の家は、「地域での生活」「季節感」を重点的に捉え、季節の行事や地域で行われる催しを中心に、計画を立てて活動を行ってきました。

中でも今年度の特徴として「おでかけ」が挙げられるのではないかと思います。

右記の計画以外にも、随時お出かけや散歩などを行い、なるべく室内にこもらないように取り組んできました。

普段なかなか行くことのできないところや、季節を感じられるような場所を中心におでかけをしてきました。

4月には名古屋の桜の名所「山崎川」を中心に花見に出かけ、11月には近場の「東山動植物園」に紅葉狩りにも行きました。



紅葉狩り@東山動植物園

2007年度活動内容

月	活動内容
4月	お花見(山崎川など)
5月	花のとう、母の日
6月	熱田祭、父の日
7月	七夕、土用丑、名古屋港水族館
8月	プール(大地駐車場にて)
9月	十五夜
10月	遠足(ラグーナ蒲郡)
11月	紅葉狩り、芋掘り(瀬戸の農場にて)
12月	クリスマス会
1月	新年会&成人式、書初め
2月	節分、バレンタインデー、セントレア(中部国際空港)見学
3月	ひな祭り、梅見、ホワイトデー、工場見学

10月には「ラグーナ蒲郡」へ遠足に出かけました。

現地にはレンタルルームがあり、室内で昼食を摂ったり、横になったりとゆったりした時間を過ごすことができました。

また、途中大渋滞にも巻き込まれ、メンバーの身体的負担は大きかったと思

いますが、負担以上の楽しみや経験
ができたのではないかと思います。

ショッピングを楽しんだり、遊園地の
アトラクションに興味津々だったり、た
くさんの笑顔を見せてくれました。

12 月には愛実友だちの家と合同で
クリスマス会を行いました。

今年度リトミックの活動で何度も何
度も練習を重ねてきた「メンバーの合
奏」&「アシスタントの合唱」の発表で
したが、なかなか練習どおりには行か
ず、四苦八苦したのが実際のところす。
合奏そのものに戸惑っているメンバーもいま
したが、アシスタントの合唱が足を引っ張ってしまったようにも思います。



♪♪♪秋の遠足♪♪♪



そして 1 月には、今年度成人を
迎える大地と紙風船のメンバ
ーのお祝いと、新年のお祝いを兼
ねて、栄にあるホテルで「成人祝
パーティー&新年会」を行いました。

成人を迎えたお二人と親御さん
は壇上に座り、緊張した面持ち
でしたが、和やかな雰囲気の中
で良い時間を過ごすことができ
たのではないかと思います。

成人になるのを待っていたかのように、おいしそうにビールを飲む新成人には驚かされ
ました。その飲みっぷりはなかなかのもので、見ているこちらでも飲みたくなりそうなくらい
でした。

また、当日はマジシャンをゲストに呼び、普段見ることのできないマジックを間近で見
ることができ、多くのメンバーは喜んでくれていたと思います。

なかなか充実した活動を行うことは難しいですが、一歩ずつ徐々に良い方向に向か
って歩いていけるようアシスタント一同頑張ってお参りますので、引き続きのご支援よろしくお
願い致します。

紙風船のページ

(P7~11)

成人を祝う会 & 新年会

1月22日(火)名古屋ガーデンパレスにて、NPO愛実の会の新年会及び成人を祝う会を行いました。2人のメンバーが成人を迎えられました。会場では、2人の幼い頃のビデオが上映されたり、特別ゲストでプロの方によるマジックショーなどとても賑やかな時間を過ごす事ができました。

成人おめでとうございます！

新たな出発です！今後の活躍を期待しています。



防災訓練



防災訓練をかねて、防災センターへ行ってきました。大地震を体験できるコーナーに行き、震度7の揺れを体験してきました。すごく怖くて、揺れてる時間がとても長く感じられました。ガスの元栓や出口の確保など、いろいろと大変で、いつ来るのかとても不安になりました。他にも台風の怖さをセンターの人が教えてくださり、対策をしっかりやらなければいけないと思いました。

僕達の場合、体が不自由ですぐには動けないからより怖さを感じます。

グッズづくり



新しいグッズとして、昨年の10月頃から牛乳パックを使ったハガキ作りを始めました。最初は分量やタイミングがうまくいかず、なかなか思うように出来ませんでした。少しずつ慣れてきているいろいろなパターンを試せるようになり、楽しく取り組めるようになってきました。最近では、ハガキの描き具合がどんな感じが、絵や言葉を書いたりして試しています。

紙風船オリジナルの作品として、皆さんのもとへ届けられるのを楽しみに頑張ります☆

作ったハガキにみんなで
絵や文字をを描いてみました☆



シンポジウム参加

～現在 障害者自立支援法を問う～

2月15日(金)私達に関係のある障害者自立支援法の研修へ行ってきました。午前中は障害当事者・当事者の御家族・施設職員・県や市の職員が現状を話され、藤井克徳氏が各立場の方に色々と質問を投げかけ、私達も考える事が多々ありました。

午後からは藤井克徳氏の講演会があり、介護保険から今までの経緯を話されました。自立支援法がいい法案になっていく様なお話でした。これからもこの様な勉強会があれば参加していきたいと思います。



☆あとがき☆

3月になってまだ寒い日もありますが、お元気ですか？

NPO法人「愛実の会」と合併して、早いもので2年目を迎えようとしています。

いろいろな体制なども徐々に変わってきているので、これまで紙風船を支援して下さっている皆様からの、会報に関してのご意見等、何かありましたら紙風船までお寄せ下さい。お願いします！！

田中 良枝

<メンバーの思い>

「 彩 り 」

山下 純

Mr.Children のアルバム「HOME」に入っていてミスチルで一番好きと言えるくらいの歌です。

日常のささいなことに生きがいや、喜びを持って生きていこうっていう歌です。

なんてことのない小さな工夫の積み重ねが、周り回って誰かに届いているかもしれない、誰かの笑顔を作っているかもしれない。

そうやって笑顔の連鎖を作っていけば、世界が平和になるんじゃないかなって考えさせられる歌です。

紙風船の人形劇でも同じことが言えると思う。

僕はもう人形劇には参加できないかもしれないけど、みんなの笑い顔をつくってあげたらと思っています。



<協力者の思い>

「 Made in 紙風船 」

早川 門呂

「何かおもしろそうなトコないかな…」大学時代の就職活動中の時でした。「人形劇の創作活動…」という項目が目飛び込んできて「これだ！！」と思った時には、もう紙風船に電話をかけていました。昔から目立ちたがり屋で「何か変わった事がしたい」と常に思っていた私には、人形劇がとても興味深く、新鮮でした。教科書がなく常に変化していく舞台に、いつもワクワクしていた事を今でも憶えています。そして紙風船にお世話になってから自分で掲げたスローガン「一日一笑」今でも継続中です。今の職場でも「笑い＝早川」が定着してきました。今日も明日も明後日も、人の笑顔を引き出していきたいと思います。紙風船のみんなも、人形劇で沢山の人の笑顔を引き出してあげてください。

「人を笑顔にする喜び」「人を喜ばすには、まず自分が楽しむ」など人形劇を通して教わったことは数知れず…。そして介護をする楽しさ、喜びという大切なことを教えてくれました。今も新しい環境で楽しくお手伝いをさせてもらっています。

「福祉に大切なものは笑いだ」と言える介護士としての私は、Made in 紙風船です。これからも一緒に沢山の人の笑顔を引き出しに行きましょう。

☆公演ページ☆



8月に長野県で開催される、飯田人形劇フェスティバルに向けて、新たにリニューアルする作品「モコちゃん」の稽古が始まりました。現在は脚本整理とセリフ合わせに取り組み、3月後半からは本格的に立ち稽古が始まります。みんなで気持ちを一つにして練習に取り組んでいきたいと思ひます。

応援よろしくお願ひいたします！！



☆公演予定☆

8月9日(土) 飯田人形劇フェスティバル参加予定

<お知らせ>

8月2日(土) 南文化小劇場にて、現在稽古をしている「モコちゃん」の上演会を考えています。練習の成果を皆さんに見ていただき、また普段からお世話になっている、愛実の会の皆さんや地域の方々にも、私たちの人形劇を見ていただける機会にしていきたいと考えています。

公演依頼募集中です！！

学校の行事や地域のイベントなど、ぜひ紙風船を呼んでください！
心温まる人形劇を皆さんにお届けします☆

大人になるということ

南 寿 樹

それまですらすらと動いていた毛筆が急に動かなくなる。プルプルと指先が震え出す。設定19℃のエアコンが暑い。私は半袖になり、大きく深呼吸をする。でも震えは止まらない。

——生まれて初めて卒業証書を書いた。書道を習ったのは小学三年生の頃(40年前)だ。「本人やその家族にとっては一生残る大切なもの。いい加減なものを書けない」というプレッシャーに押しつぶされそうになったのだ。「引きうけるんじゃないかった〜」という後悔を何度呑み込んだことか……結局14名の卒業証書の清書に6時間も時間がかかった。

でもそのおかげで卒業式の授与の時には、実の子を見守る親のような感覚でその子と家族の歴史(人間ドラマ)をイメージすることができた。何度も同じ名前を書くことで「親はこの名前にどんな願いを込めたのだろうか?」という思いが湧いたのだ。そして卒業証書を脇に抱え、ゆっくりと歩くその背中に向かって私は心の中でメッセージを贈った。

——「人とのつながりを大切に、自分の人生の主人公になる大人になれよ」

ところで「大人になる」とはどういうことであろうか?

中学卒業でも就職すれば大人?自動車の免許が取れる18歳からが大人?満20歳になって飲酒、喫煙が許され選挙権が与えられてやっと大人?…でも20歳といってもまだ学生で社会人にはなっておらず、大人の自覚のない青年はいくらでもいる。それは「別にあって大人にならなくてもいい」という思いを社会状況が作り出してきたからだろう。つまり一昔のように幼い頃から家業を継ぐことが決まっており、身体が成熟すれば「稼ぎ手」としてすぐに大人となっていく状況がなくなり、公教育の普及で「まだ大人にならなくていい」という「猶予期間(モラトリアム)」ができたり、親も経済的ゆとりがあり子が自立せずに同居(パラサイト)していても困らなかつたりする状況があるのだ。

しかし、「こうでありたい自分(理想)」が「こうでしかない自分(現実)」に屈するのを恐れて社会(人)とのかかわりを敬遠しては、結局は「こんなはずじゃなかった」と自己実現できない後悔のみが残るのではないだろうか?わたしはそんな人生を送ってほしくない。

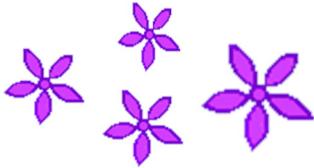
大人になることの良さは、人とのつながりの中で何かを「営む」あるいは「育む」ということを重ねることによって『生きることの深み』を味わうことにある。

西 研(京都精華大)は言う。「人が幸福に生きるための条件として【愛情】【役割と承認】【表現と理解】の三つの人間関係がある。この中で、自分の中の困難がどのような“かたち”をしているのかを他人がわかるような言葉にして互いに分かり合える【表現と理解】の関係ができた経験が自分を大人にしてくれた」「人を傷つけたのではないかという思いを飲み込まず、素直に(傷つかなかったかい?)と勇気をもってコミュニケーションすることで信頼は生まれる」——大人になるとはそんな信頼関係が作れる人になることではないだろうか…

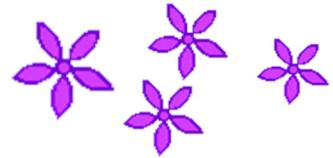
そう考えると、理想の社会に向け理不尽なものと戦うときも、ひとりで抱え込まず仲間をつくったり「今日は理不尽と戦ったけれど、明日はちょっと周囲に合わせる」といった中途半端なやり方かまわなから人とのつながりを大切にしたい。そしてなにより、何かの持ち場(仕事に限らず)を担って、価値のある自分を実感して自信をつけてほしい。

「どんな困難があっても何とかできる。よく考えれば必ず手はある。助力が必要ならば頼めば良い。自分の人生どんなふうにもやって行ける」そんな力の感覚は、現実に対して無力な子どものものではない。最後に「大人になる」(自分づくり)の正解の形は一つではない。

あせらず……かけがえのない人生、自分自身が納得する自分の「生」を形作ってほしい!



賛助会員募集



『特定非営利活動法人 愛実の会』へのご支援をお願いします。

- ① 賛助会費
NPO愛実の会の活動にご賛同頂ける方、ご協力お願い致します。
- ② 土地建物取得資金
将来、「NPO愛実の会」の土地建物取得費用に充当します。
- ③ 紙風船夢づくり基金
紙風船の仲間たちが人形劇の活動を充実させ、発展させていくために必要な費用です。人形制作費や遠方での公演活動費として活用させていただきます。ご賛同頂ける方は、よろしくお願い致します。

賛助会費	年額	1 <input type="checkbox"/> 1,000円	(何 <input type="checkbox"/> でも結構です)
土地建物取得		1 <input type="checkbox"/> 1,000円	(<input type="checkbox"/> “)
紙風船夢づくり		1 <input type="checkbox"/> 1,000円	(<input type="checkbox"/> “)

※ 郵便振替 座番号 00850-6-187490 あみ
座名称 『特定非営利活動法人 愛実の会』

※ 振込方法について

①賛助会費 ②土地建物取得資金 ③紙風船夢づくり基金の3つの項目があります。ご賛同いただける項目(複数でも可)と金額を振込用紙の通信欄にご記入の上お振り込み下さい。
なお不明な点がございましたら、下記までご連絡下さい。よろしくお願い致します。

NPO法人愛実の会
052-700-1120 担当 中森

ボランティアさん大募集

仲間達と一緒に活動して下さる方、また食事の後片付けや掃除等を手伝っていただける方を随時募集しています。

興味のある方は、ぜひご連絡ください！！

イエローレシートキャンペーン実施中

毎月11日「イオン・デー」に開催される『イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン』に愛実の会も参加しています。
 現在ジャスコ名古屋みなと店様とマックスバリュート種若宮大通店様にボックスを設置させていただいています。
 ぜひ、ご来店の際はご協力よろしくお願ひします。

<連絡先>

<p>特定非営利活動法人愛実の会 事務局 居宅介護事業所 あみ</p> <p>〒456-0034 熱田区伝馬1-8-1-201 TEL 052-700-1120 FAX 052-700-2383 e-mail npo-aminokai@sf.commufa.jp</p>	<p>大地の家</p> <p>〒456-0034 熱田区伝馬2丁目28-14 「名古屋働く人の家」内 TEL 052-681-6488</p>
<p>紙風船</p> <p>〒457-0845 南区観音町5-109 TEL/FAX 052-694-5458 e-mail ami_kamifuusen@yahoo.co.jp</p>	<p>愛実友だちの家</p> <p>〒456-0057 熱田区五番町18-29 TEL/FAX 052-651-5953 e-mail ami-tomo@na.commufa.jp ※アドレスが変わりました</p>

【編集後記】

三寒四温の名の通り、徐々に春めいてきましたね。
 これからどんどん外に出掛ける機会が増えてくるので、楽しみにしています。

この一年間、愛実の会の活動を支援して頂き、ありがとうございました。
 2008年度もどうぞよろしくお願いいたします。

佐野 光子